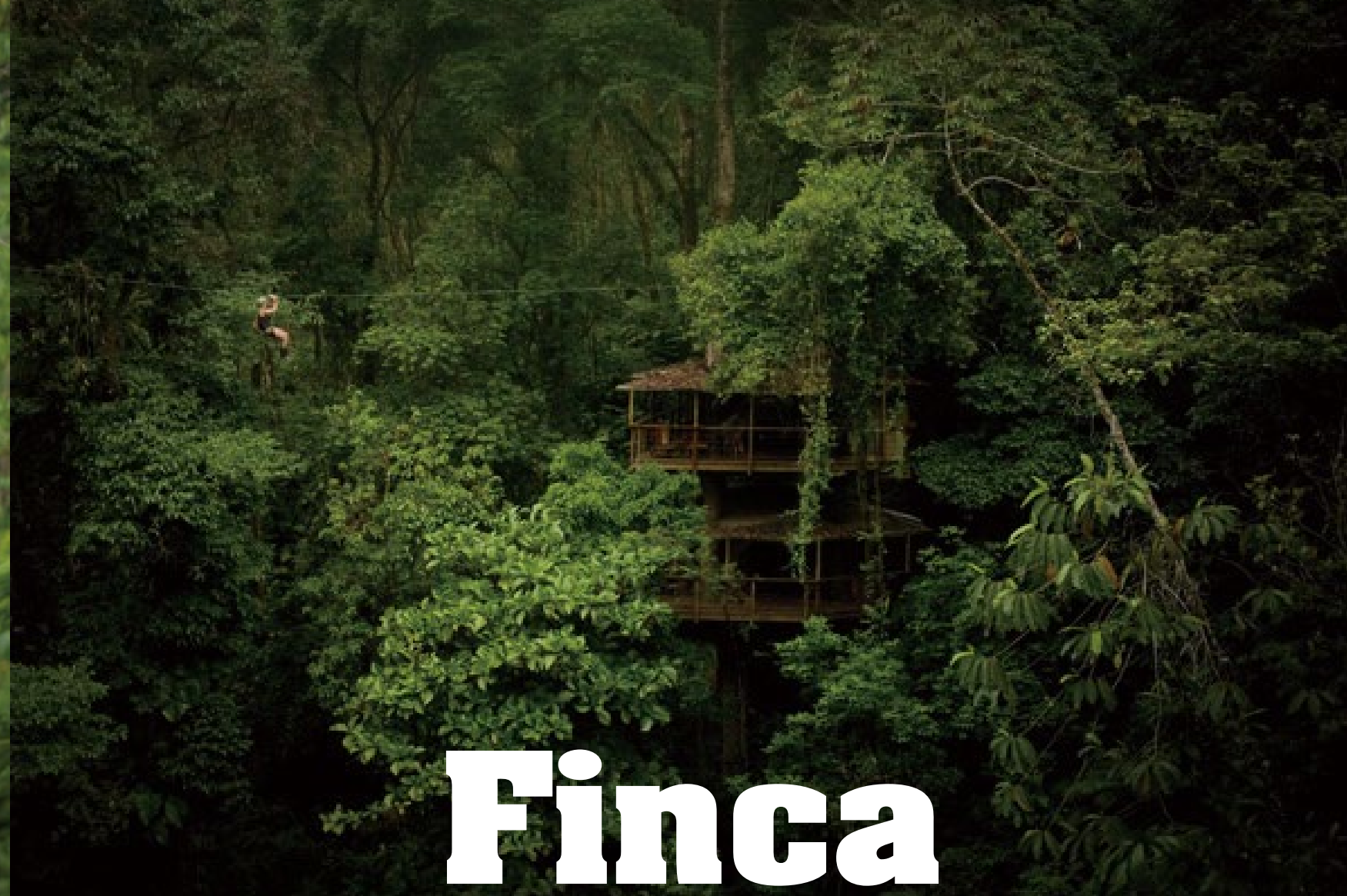


木の上で暮らす。そんな夢がかなう場所。

フィンカ・ベラヴィスタにあるツリーハウスの1つ、「El Castillo Mastate」。
ツリーハウスはどれも、個性あふれる
ユニークなデザインのものばかりだ。

「私の目」を意味する「Mis Ojos」という名のツリーハウス。別名「ウォーターフォール・ツリーハウス」。フィンカ・ベラヴィスタの入り口。進むとコミュニティのベースキャンプエリアに出る。

フィンカ・ベラヴィスタでは、ワイヤーロープと滑車を利用してツリーハウス同士を行き来する。



Finca Bellavista

熱帯雨林の中の楽園。

コスタリカ南部の太平洋岸地域に広がる熱帯雨林。その森の中には、Finca Bellavista(フィンカ・ベラヴィスタ)と呼ばれるツリーハウス・コミュニティがある。フィンカ・ベラヴィスタはどのようにして誕生したのか?そこでの生活はどのようなものなのか?“熱帯雨林の中の楽園”を覗いてみよう。

photographs by Finca Bellavista text by Makiko Kojima



フィンカ・ベラヴィスタの創立者であるホーガン夫妻。森の中の道に立てる標識を運ぶエリカ(上)と、フィンカ・ベラヴィスタ内の小川のほとりで物思いにふけるマテオ(下)。

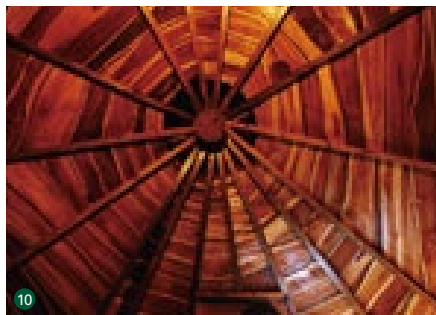
「ねえ、ツリーハウスなんて
どうかしら?」

フィンカ・ベラヴィスタの生みの親はアメリカ人のホーガン夫妻。夫のマテオは、2006年にサーフィン旅行でコスタリカ南部を訪れた際に、その美しさに心を奪われ、妻のエリカと共に、そのエリアに休暇で利用できるバンガローを構えることを計画した。彼らは数多くの候補地を入念に検討し、最終的にベラヴィスタ川が流れる神秘

的な森を選んだ。

そこを訪れた彼らは、入手した土地をどのように活用するか話し合った。エリカは、そこに生息するすばらしい木々のことを考え、ツリーハウスをつくることを思いついた。マテオもそのアイデアが気に入った。

しかし、シンプルなツリーハウスを1軒つくるだけでは土地が余ってしまふ。そこでエリカは、他の人々にも呼びかけて共同でツリーハウス・コミュニティをつくってはどうかと提案した。



⑩「Mis Ojos」の天井は、④のデザインをモチーフにしている。このように、ツリーハウスをつくる際には自然界の造形を参考にすることも多い。⑪ツリーハウス「El Castillo Mastate」の広々としたベッドルーム。⑫ツリーハウスではのんびりと過ごしたい。「Mis Ojos」には、昼寝や読書にぴったりの長い床がある。⑬コミュニティセンターにあるラウンジ。テーブルに飾られた野生の花が美しい。⑭「El Castillo Mastate」にアクセスするための吊り橋。⑮フィンカ・ベラヴィスタの夕景。コミュニティセンターのオレンジ色の光が温かさを感じさせる。

①ヒナにエサをやるメスのコシアカフウキンチョウ。②カメラを意識して(?)のど袋をふくらませるアノールトカゲ。③アカマアマガエル。フィンカ・ベラヴィスタには多種類のカエルが生息する。④フィンカ・ベラヴィスタの自然が生み出す美しいデザイン。⑤フィンカ・ベラヴィスタで見られる4種類のカエルのうちの1種、ノドジロオマキザル。⑥ツリーハウス「Mis Ojos」でモーニング・コーヒーを楽しむゲスト。⑦フィンカ・ベラヴィスタのガーデンで美しい花を咲かせるパッションフルーツ。⑧ティキトーチに映し出されたアノールトカゲの影。⑨ツリーハウスを覗き込むクリハリシオオハシ。



生えを刈り取り、足場をつくり、地面

は、周囲の環境などを検討してもら
う。それからツリーハウスの構想をス
タート。ツリーハウスは千差万別なの
で、本などを参考にアイデアを練
るとよいとのこと。また、必須条件と
希望条件のリストアップも重要だ。
大体のアイデアが固まったら、施工
業者を決め、デザイン段階に入る。フ
ィンカ・ベラヴィスタが経営する建設
会社を利用する場合は、一般的な手順
と同様、まずはオーナーにデザインの
下図と見積書を提示する。また、季節
や気候を考慮した建設スケジュールを
考えなければならぬ。

実際に建設を始める前に、オーナー
はツリーハウスへのアクセスポイント
を設けることが義務付けられている。
環境への影響を最小限にするためにも
計画的で安全なアクセス経路を確保す
ることは非常に重要だ。また、枝や下

構想から5年、フィンカ・ベラヴィ
スタには徐々にツリーハウスが増え、
施設も充実してきている。ベースキャ
ンプにあるコミュニティセンターには、
広々としたダイニングホールやコーヒ

シンブルだが快適な
森の中の暮らし。

の上に生えている根を保護することなど
も求められる。これらをクリアし、ツ
リーハウスの建設許可が下りれば、建
設に着手することができる。



そびえ立つ巨木の間につくられたツリーハウス「Casa Mariposa」。「蝶の家」という意味だ。

生物多様性を豊かにするため、彼ら

その土地をよりよい方法で活用できる
のではないかと考えた。ツリーハウ
ス・コミュニティをつくって人間が移
り住むと環境に何らかの負荷をかけて
しまうが、それでもなお、何らかの形
でその土地にいい影響を及ぼすことが
できるはずだ——。ホーガン夫妻はそ
う信じた。

環境を改善し、
生物多様性を取り戻す。

そのほうがコスト負担も少なくなるし、
ツリーハウス同士をワイヤーロープで
つないで滑車で行き来できるようにす
ることを考えて、彼らはわくわくした。
このように単なる思いつきから始ま
ったツリーハウス・コミュニティが、
現在のフィンカ・ベラヴィスタとなっ
て実現したのである。

場所は選ぶ。その際には、ツリーハウ
ス建設に適している木々を植物学者に
調べてもらうほうがよい。そしてオー
ナーは区画内の候補となる木々を実際
にチェックして、大きさ、種類、ロケ
ーション、周囲の地形、アクセス、水
はけなどを考慮して、どこにツリーハ
ウスをつくるかを決める。

フィンカ・ベラヴィスタは、コスタ
リカ南部の「サザン・ゾーン」と呼ば
れる山地にある。そこは「コスタリカ
最後のフロンティア」として知られて
おり、生物多様性の宝庫だ。国立公園
や森林保護区も多数ある。しかし長年
にわたって、森林伐採や放牧、採鉱、
そして何よりも農業利用のために切り
開かれてきた。フィンカ・ベラヴィス
タの森は原始の熱帯雨林に見えるが、
その大部分は再生林である。

このように、広大な熱帯雨林の環境
を改善し生物種を保全することが、ホ
ーガン夫妻の望みであり、フィンカ・
ベラヴィスタのミッションなのである。

は単一種の人工林を開ききして代わり
にその土地固有の木々や結果樹を植え、
さまざまな動物がやって来るようにし
た。現在までに、フィンカ・ベラヴィ
スタには1600種以上の自生樹が植
えられ、多くの野生動物が移り棲んで
きており、森はより自然に近い状態を
取り戻そうとしている。



ここはまさに
楽園だよ

フィンカ・ベラヴィスタにまつわる 5つのギモン。

森の中に住むのは怖くない?

いいえ、ちっとも! 熱帯雨林は猛獣や動物がいる恐ろしい場所だと思われがちですが、実際はとても穏やかで安全な場所です。フィンカ・ベラヴィスタに1晩泊ればわかりますよ。

フィンカ・ベラヴィスタの気候はどんな感じなの?

11月~5月が乾期で、6月~10月が雨期です。最も降水量が多いのは10月。気温は、年間を通して日中は27度くらい、夜間は15~20度なので、とても快適です。エアコンはいりません。

フィンカ・ベラヴィスタの自給率はどのくらい?

電力は太陽光発電でまかない、水は雨水や湧き水を利用しており、いずれも自給率は100%です。食料の自給率は6~7割。農産物を購入する際は、地元産のものにこだわっています。

ゴミはどうやって処理しているの?

各ユニットには好気性生物処理装置の設置が義務付けられており、それを利用してゴミを処理しなければなりません。この装置のしくみは、地中で行われる微生物による生分解と同じです。

住人たちはどうやって仕事をしているの?

通信機器を利用して在宅勤務をしている人や、ツリーハウスをオフィスにして会社を営んでいる人がいます。サービス業や観光業に関連したビジネスを始めるチャンスもありますよ。



①マテオとエリカのお気に入りのピクニックスポット。②スカイトレイルでハイタッチするマテオとエリカ。③ツリーハウスからの眺めは最高!

フィンカ・ベラヴィスタ
2006年に構想がスタートした、世界初の近代的で持続可能なツリーハウス・コミュニティ。「エコロジー・マインドをもつ人々に熱帯雨林の樹上に住む機会を提供するとともに、生物種と自然環境の保全を促進する」ことをミッションとする。
<http://www.fincabellavista.net/>

「森の中に住むことは、私の人生で最高の経験だわ。森の中になると、とてもリラックスできて癒される。静けさの中に響く生き物の声を聞きながら眠りにつき、朝は鳥のさえずりで目覚める……。ほんとうに平和な日々よ」とエリカは話す。

フィンカ・ベラヴィスタは、環境だけでなく、そこに世界中から集まってくる人々もすばらしい。オーナーたちは、元軍人、ビーガン料理のシェフ、教師、アーティスト、CEO、自営業者などさまざまなバックグラウンドをもつ人々だが、みな活動的でアウトドア好き、そして環境に対する意識が高い。彼らはお互いに助け合い、仲良くやっているといる。

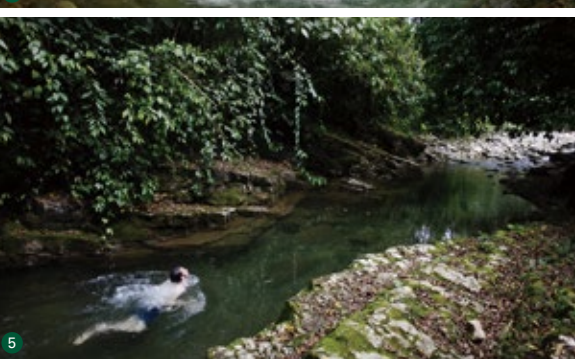
「多くの人が才能とアイデアを生かしてフィンカ・ベラヴィスタをよりよくしようとして努力してくれている。僕たちの予想を超えて、コミュニティはどんどん変化して成長しているよ」とマテオは言う。フィンカ・ベラヴィスタは、これからのように発展していくのだろうか。とても楽しみだ。

人々のエネルギーによってさらに成長する「コミュニティ」。

区画が売約済みで、ツリーハウスとキッチンがそれぞれ5軒ずつ建設されている。その使用目的は、住居、休暇用別荘、賃貸物件など、オーナーによって異なる。今後、さらに多くのツリーハウスがつけられる予定だが、まだもう少し時間がかかりそうだ。



①スカイトレイルで行き来するのはとても楽しい! 絶好の撮影スポットでもある。②地元の人々にツリーハウス建設について説明するマテオ。③スカイトレイルに挑戦しようとするフィンカ・ベラヴィスタの住人とその友人たち。④ベラヴィスタ川に注ぎ込む滝。⑤ベースキャンプには泳げる場所もある。⑥地元のサッカー仲間であるホスエにスカイトレイルの利用方法を教えるマテオ。⑦フィンカ・ベラヴィスタのオーガニック菜園。食料はできるだけ自給するようにしている。⑧フィンカ・ベラヴィスタはフルーツも豊富。⑨コミュニティセンターでは夕刻に演奏会が開かれることも。



「コミュニティ内を移動する際には、フィンカ・ベラヴィスタ中に張り巡らされた「スカイトレイル」と呼ばれるワイヤーロープと滑車を利用する。スカイトレイルからは熱帯雨林と下を流れる川という見事な景色が堪能でき、まるでターザンになったような気分が味わえる。

フィンカ・ベラヴィスタのエネルギーは、カーボンニュートラルな太陽光発電でまかなわれている。電化製品は普通に使用可能だが、節電が推奨されている。また携帯電話やインターネットも利用できる。ツリーハウスは世界中とつながっているのだ。

いちばん近い町まではほんの1.5マイルで、そこには学校、教会、食料品店、バス停、そしてサッカー場もある。外界からまったく閉ざされているわけではないのだ。一方で、国立公園や美しいビーチなど、コスタリカの素晴らしい自然遺産の数々に容易にアクセスすることができ、ハイキングやアウトドア活動には最適である。最低限の利便性を備えながらも、熱帯雨林という大自然の中で生活ができるのが、フィンカ・ベラヴィスタの大きな特徴だ。

現在、フィンカ・ベラヴィスタの48